

<事務局便り>

平成 15 年度炉物理部会運営委員

部会長(1 年)	大杉 俊隆 (サイクル機構)
副部会長(1 年)	島津 洋一郎 (北海道大学)
庶務幹事(1 年)	岡嶋 成晃 (日本原子力研究所)
庶務幹事(2 年)	辻 雅司 (北海道大学)
幹事(学会炉物理部会担当企画委員)	島津 洋一郎 (北海道大学)
幹事(学会編集委員)	宇根崎 博信 (京大炉)
幹事(学会炉物理委員会委員長)	中川 正幸 (日本原子力研究所)
財務小委員会(1 年)	北村 康則 (名古屋大学)
財務小委員会(2 年)	中島 健 (京大炉)
編集小委員会(1 年)	奥村 啓介 (日本原子力研究所)
編集小委員会(2 年)	青木 繁明 (三菱重工業)
編集小委員会(部会 HP 担当)	外池 幸太郎 (日本原子力研究所)
セミナー小委員会(1 年)	島津 洋一郎 (北海道大学)
セミナー小委員会(1 年)	辻 雅司 (北海道大学)
学術交流小委員会(1 年)	石川 眞 (サイクル機構)
学術交流小委員会(2 年)	宇根崎 博信 (京大炉)
学生・若手小委員会(1 年)	巽 雅洋 (原子燃料工業)
学生・若手小委員会(2 年)	名内 泰志 (電力中央研究所)

炉物理部会ホームページの刷新

炉物理部会のホームページ(RPDweb : <http://typhoon.tokai.jaeri.go.jp/rpd/>)を刷新し、2003 年 12 月 18 日より運用を開始しました。新しいホームページの特長は以下のとおりです。

1) RPDmail(部会メーリングリスト)

原研のファイアーウォールを信頼し、添付ファイル(本文込みで 512KB 以下)を許容するようにしました。また、PRDweb のトップページに最新 5 件のメール Subject を新着情報として自動表示するようにしました(30 分毎に更新され

ます)。トップページの該当部分をクリックすると、メール本文を閲覧できます。ただし、パスワードで保護されています。

RPDmailの利用方法に関する案内を詳しくしました。また、部会員名簿を学会登録名簿(2003年11月19日:334名)で更新し、E-mailが登録されている全部会員(281名)に配信するようにしました。配信を希望されない方は、各自で配信先リストからの削除をメールで申請してください。方法はRPDwebに記載してあります。

2) RPDbbbs(掲示板)

過去の掲示板は、部会員以外の炉物理に無関係な書き込みがありましたのでパスワードで保護し、書き込み閲覧は部会員に限定しました。部会員は、自由に書き込み閲覧が可能で、ファイルの添付も許されます。また、最新5件のSubjectがPRDwebのトップページに新着情報として自動掲載されます(30分毎)。

3) 炉物理部会ニュース

を復活させました。今後、RPDmailや運営委員会のメール内容から記事を抽出し、編集小委員会の仕事として、頻繁に発行したいと思います。

4) 夏期セミナー

夏期セミナー報告を可能な限り収集して電子ファイル化し掲載しました。また、過去の実績(1969~2003)を全て調査して一覧表を作成しました。

5) 炉物理の研究 (新企画)

本誌を含め、今後発行する部会報「炉物理の研究」を電子化してホームページに掲載する予定です。また、過去の部会報も、可能な限り収集して掲載したいと思います。

6) 成果リスト(新企画)

部会員の炉物理に関する論文・公開報告書などの成果を広報するPublication Listを掲載します。部会員から文献情報を募集し、編集小委員会が掲載判断いたします。

7) 部会員報告 (新企画)

炉物理に関する部会員のまとまった成果を広報します。過去のJCO事故特集

や最近の炉物理研究委員会のベンチマーク活動といった成果を掲載しています。URL リンクも行いますので、部会ホームページからリンクをご希望するの方は HP 担当者にご連絡ください。

8) 部会運営

部会規約、現在及び過去の運営委員一覧を掲載しました。また、1997年～現在までの総会議事録を全て収集し、電子化して掲載しました。

9) 関連会議

国際会議などの案内を掲載します。また、OECD/NEA から発信される最新の会議リストを見られるようにしました。

10) 部会企画

学会の部会企画セッションなどを案内します。

11) Link

国内、国外への関連機関へのリンクを更新しました。RPDwebからのリンクを希望される方は、HP 担当者までご連絡ください。

12) Search

RPDWeb内検索をできるようにしました。トップページからのサーチも可能です。RPDmailもサーチ対象に指定できます。添付ファイルも pdf や txt ファイルであれば検索の対象となります。

13) About us

主に初めて RPDweb を訪れる方を対象に炉物理部会を紹介するページです。学会 HP にリンクし、炉物理部会への入会や部会員の登録情報変更をオンラインでできるようにしてあります。また、部会規約と部会員の一覧(名前と所属のみ)が見られます。更に、部会員名簿(2003年11/19)から、名前、勤務先、部局、郵便番号、住所、勤務先電話番号、勤務先 FAX 番号、E-mail の検索が可能です。(パスワード保護)

RPDweb の一部(RPDmail と RPDbbs の閲覧や検索、部会員名簿)はパスワード保護されています。パスワードは従来どおりですが、ご存知ない方やお忘れになった方は、HP 担当者までご連絡ください。また、RPDweb に対し、ご要

望やご不満等がありましたら、ご連絡ください。

RPDweb に関するお問合せ先：

編集小委員会	奥村啓介	okumura@mike.tokai.jaeri.go.jp
HP 担当	外池幸太郎	tonoike@nucef.tokai.jaeri.go.jp
HP サーバー管理者	須山賢也	kenya@cyclone.tokai.jaeri.go.jp

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄)：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース(ホームページに掲載)の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会(会報担当)

奥村啓介	okumura@mike.tokai.jaeri.go.jp
青木繁明	aoki@atom.hq.mhi.co.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿を基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先 E メールアドレス、部会ホームページにおける名簿検索などに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。変更手続きは、以下の URL からオンラインで申請が可能です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/member/henkou.html>

第 19 回炉物理部会総会の報告

1. 日 時 2003 年 3 月 28 日(金) 12:00-13:00
2. 場 所 アルカス佐世保 2F 楽屋 203 (H 会場)
3. 議 事
(1) 平成 14 年度活動報告

a. 平成 14 年度決算報告及び平成 15 年度予算案 (三澤委員)

平成 14 年度の決算報告及び平成 15 年度の部会予算案が提示され、賛成多数にて可決された。

14 年度の決算では、経常予算の収支が赤字になり、夏期セミナー等の雑収入が期待できないと「炉物理の研究」等の会報発行も難しい状況になるとの報告があった。また、古橋基金及び PHYSOR96 からの寄付等の収入は、特別予算枠として、事務局からの指示により平成 17 年度までに使い切ることになっていることが報告された。そこで、経常予算の実状と今後の活動資金を考慮して、増収の方法、支出予算の合理化等の意見が求められた (資料配付及び部会報を参照)。

b. 平成 14 年度編集活動報告 (山本 (章) 委員)

「炉物理の研究」を 2 回発行した。最新号は、「並列計算」の特集であり、4 月上旬に発行予定であることが報告された。

c. 平成 14 年度学術研究交流活動報告 (小原委員 / 竹田部会長)

秋の学会では、核励起レーザーの特別セッションを開催した。春の大会では、当初韓国原子力学会 (KNS) との日韓合同セッションとして計画していた 2002 年炉物理部会主催国際セミナーを、諸般の事情から炉物理・核データ合同セッションに変更し、企画した。また、今後の日韓協力について、日韓合同セッションを年 1 回交互に開催することで検討することが報告された。

d. 平成 15 年度運営委員選出 (竹田部会長)

大杉部会長、島津副部会長 (セミナー小委員兼務) を始めとする、新年度運営委員候補案が紹介され、新規委員及び継続委員ともに賛成多数で承認された。新規に選出された委員は、部会長、副部会長の他、辻庶務幹事 (セミナー小委員兼務)、中島財務小委員、青木編集小委員、宇根崎学術研究交流小委員、名内学生・若手小委員の計 7 名 (資料配布)。

(2) 企画委員会報告 (山根委員)

これまでの継続として、学会申し込みのオンライン受付を 14 年度秋から開始し継続中であること、部会の活性化について審議していること、学会の規定の見直し作業が継続して行われていることの報告があった。また、岡嶋委員より、予算 WG での審議について報告があり、学会の予算が逼迫

している状況、15年度から部会補助金を削減し、且つ各部会から供託金を徴収することなどが報告された(資料配付)。

(3) 編集委員会報告(山本(敏)委員)

平成15年度には炉物理関係の7名の編集委員の内、3名の委員が交代することが報告された。運営委員である山本委員も6月で任期を満了することから、7月からは宇根崎委員が就任する。

(4) 平成15年度の活動について

a. 平成15年度予算案(三澤委員)

経常予算の収入では、学会からの配付金が246,000円へ削減されることによる減収、支出では会報印刷費の若干の削減及びセミナー補助金を削減(ただし、特別予算からセミナー事業費として削減分を充当)した予算案が示された。本予算案は、賛成多数で承認された(資料配布)。

b. 2003年夏期セミナーについて(大杉委員)

来る7月28日-30日、札幌市定山溪温泉の「定山溪ビューホテル」で2003年夏期セミナーを開催するべく準備中であるとの報告があった。セミナーのテーマは「炉物理の数値解析」及び「炉物理トピックス」とすること、スケジュールの詳細案について紹介があった(資料配布)。

c. 部会HPについて(外池委員)

部会HPの更新を積極的に行うとともに、炉物理の研究の電子化配布等を検討することが述べられた。

d. 平成15年度編集活動案(奥村委員)

これまで、部会報は慣例的に年2回発行してきたが、部会報の印刷費用と郵送費用が部会予算の大部分を占めており、今年度予算案では、年1回の発行になるかもしれない。本年度は、製本版の発送も行うが、将来的には電子化配布が必要である。部会報の電子化への対応として、炉物理部会ホームページに部会報の目次ページを置き、記事毎に電子化したアクロバット文書(pdfファイル)を選択的にダウンロードできるようにすることを考えている。

e. 平成15年度学術研究交流活動案(石川委員)

昨今の原子力界における停滞状況を考慮して、核データ部会との交流促進を積極的に進めていく計画が紹介された。その一貫として、秋の大会において「炉物理・核データ部会合同企画セッション」としてパネルディスカッション(2時間枠)を企画し、炉心設計等の解析手法、核データの使用方法等に関する「標準化」へ向けた端緒になることを期待する旨が紹介された。「標準化」へ向けた行動については、既にその方向で進んでいる専門研究会等があるので、相互に調整を図る必要がある旨の発言があった。

(5) 部会懇親会について(異委員)

恒例の懇親会を当日6:30より「十徳や 佐世保店」で開催することが通知された。なお、韓国からのゲストの参加については、会費を無料とすることが了承された。

(6) その他

a. 加速器駆動炉の用語の提案(岩崎氏)

炉物理研究委員会の加速器駆動未臨界炉ワーキングパーティーにおいて検討されてきた、未臨界に関する炉物理量の用語について、意見が求められた(資料配付)。

b. 運営委員への連絡について

部会に対する要望、意見を運営委員へ連絡するために、運営委員のメールアドレスを公開して欲しい旨の要望があった。大杉委員より、要望に応えたい旨の発言があった。

第20回炉物理部会総会の報告

1. 日時：平成15年9月26日(第3日目)12:00-13:00
2. 場所：静岡大学静岡キャンパス A103講義室(D会場)
3. 参加者：37名
4. 議題：

(1) 平成16年度部会長候補について(大杉部会長)

これまでの慣例通り、現副部会長が次期部会長に就任する案が紹介された。併せて、次期夏期セミナーは、名古屋大学が幹事機関となることが紹介され

た。両案とも、拍手を持って承認された。

(2) 会報の発行について (奥村委員)

12月発行予定で、炉物理研究委員会で平成13&14年度に活動したWPの活動報告等の原稿を纏めつつあることが報告された。

(3) 炉物理夏期セミナー開催報告 (島津副部会長)

2003年7月28-30日 (於札幌 定山溪温泉) で開催され、48名の参加があった。「炉物理を中心とした数値解析—苦労話と裏話」のテーマの下、数値解析についての経験談を織り込んだ示唆に富んだ講義が行われたことが報告された。

(4) 部会予算 (案) (北村委員)

配布資料に沿って、収支予算の中間報告が行われた。予算の観点からも、部会員の勧誘の継続が求められた。また、昨年度計上された日韓国際会議費は、学会主催の日韓合同セッションに代わったため、その使途について今後とも検討する必要があることが報告された。

(5) 企画委員会報告 (島津委員)

部会に係わる項目として、以下のことが報告された。

- ・ 部会数は増加したが、部会加入率が約40%にとどまっており、さらに2部会以上に加入している会員は1割程度である現状を鑑みて、部会の位置づけも含め、検討を継続する。
- ・ 部会賞の設置について、各部会等から意見を参考に、企画委員会で検討したが、賛否両論があり、最終的に理事会預かりとなった。
- ・ GLOBAL2005が、2005年10月2-6日 つくばで開催

(6) 編集委員会報告 (中島委員 (宇根崎委員代理))

各部会について、特集記事の提案が編集委員に求められた。その結果、以下の2つについて提案したことが報告された。

- ・ 2003年秋の大会で開催された核データ部会・炉物理部会合同パネルディスカッション (今後の長期的な視点として提案)
- ・ 炉物理研究委員会WP活動

(7) 学術研究交流小委員会報告 (石川委員)

今大会において開催された核データとの合同部会セッション「核データ・炉物理研究は、社会にいかに係わるべきか」(9月26日9-11時)について、報告があった。セッションでは、パネラーが様々な視点からの分析や提案を行い、それをもとに、会場を交えた活発な議論が行われたことが報告された。今後、両部会間で、検討の場 (メーリングリスト) を設けて、「核データ・炉物理研究が、社会との係わりにおいて、何かの行動を始める必要がある。」

ことから議論を継続し、半年ごとの学会でその進捗を報告することが決まったこと、また、両部会からそれぞれ1名の幹事(窓口)を指名することが報告された。

(8) 若手小委員会報告(名内委員)

例年通り、夏期セミナーにおいて若手研究発表会を実施した。3件の研究発表について、活発な議論が行われた。詳細は、部会報に報告予定である。

(9) 部会懇親会(名内委員)

9月25日に開催され、34名が参加し、盛会裡に終了したことが報告された。

(10) 平成16年度「炉物理夏期セミナー」の準備(山本委員)

平成15年度夏期セミナーにおいて、アンケートを実施した。そのアンケート結果に基づいて、場所、期間、テーマを検討している。現段階では、以下のような構想が紹介された。

日時：平成16年8月2日(月)～4日(水)

テーマ：数値解法で検討中。

トピックスに革新炉を含めることを検討中

この構想に対して、東工大から開催日時は、新しく施行される大学の夏期休業を考慮して欲しい旨の要望が出された。

(11) 日韓合同「夏の学校」について(大杉部会長)

AESJ-KNS Joint Sessionの発展形として炉物理部会、核データ部会、加速器・ビーム科学部会、放射線工学部会にまたがる広い範囲の分野で日韓合同の「夏の学校」が企画されていることが紹介された。第1回は、「加速器駆動炉」をテーマに平成16年7月末韓国 Pohangでの開催が予定されていること、講師として部会から1名の派遣が必要であり、その推薦を10月中旬までに取りまとめ役の核データ部会へ回答すること等が報告された。また、今後の詳細は、追って連絡すること、学生の参加等への旅費補助についても検討中であることが報告された。

(12) その他

H14年度 学会予算改善WG報告(岡嶋委員)

配付資料に沿って、H14年度決算報告およびH15年予算に関するWGでの議事内容について、説明があった。概要は以下の通りである。H14年度決算報告では、部会等の協力、現金不足金の全額回収等によりほぼ前年度に比して約37百万円改善されたこと、H15年予算はH14年度同様緊縮予算であり、部会の繰越金の一時凍結も当初の通り実施することが報告された。また、今後もWGを継続して開催していく予定であることが報告された。

W P のオブザーバー募集案内

炉物理研究委員会で H15 年度に発足の 2 つの W P に関して、オブザーバーの参加者募集の案内が紹介された。

募集期間：10 月 10 日まで

連絡先：岡嶋委員

編集後記

今回の第 56 号より、部会報を電子化(PDF ファイル)して、部会ホームページに掲載することにしました。印刷物は白黒ですが、ホームページの部会報はカラーで見ることができます。また、拡大・縮小、検索なども可能です。当面は、印刷物と併せて部会員の皆様にお届けすることになると思いますが、今後、部会報の印刷・発送経費が部会予算を圧迫し続けると、ペーパーレス化も止むを得なくなると思います。ちなみに、年 2 回の会報が発行された H14 年度の実績によると、会報の経費は約 46 万円であり、支出総額の約 85%を占めており、収支は赤字になっていることが報告されています(会報 55 号参照)。この機会に、ぜひホームページの会報もモニターしていただき、今後のペーパーレス化の是非を議論して頂きたいと思えます。なお、PDF ファイルをご覧頂くには、無料配布されている Adobe Reader 等のソフトが必要になります。Adobe Reader は以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

最後に、原稿依頼を快諾して頂いた執筆者の方々に深く感謝いたします。また、部会ホームページのサーバー管理者である須山賢也氏(原研)には、ホームページの刷新作業に多大なご尽力を頂きました。ここに記して感謝いたします。

(編集小委員会：奥村啓介)